

運動好きな児童生徒育成検討委員会～事業報告書テキスト～

スライド1

これから、運動好きな児童生徒育成検討委員会の事業報告書について説明いたします。

スライド2

1. 本委員会の目的について申し上げます。

スライド3

まず、埼玉県の実況について確認します。埼玉県の体力合計点と運動やスポーツが好きなとの相関についてです。

埼玉県の児童・生徒の体力の数値は、国の平均値を上回っています。しかし、運動やスポーツをすることが好きですか。という質問に対し、「運動やスポーツをすることが好きである、やや好きである」と答えた児童生徒の割合は、国の平均値を下回っている。という特徴がここ数年続いています。

むかって左のグラフが小学校5年生男子。右のグラフが小学校5年生女子です。それぞれ、グラフの縦軸は体力合計点を示しており、横軸は運動やスポーツをすることが好きである児童の割合を示しています。

埼玉県は、ご覧のとおりの方に該当しており、この傾向は中学校や高等学校、そして、性差に関係なく同様の状況です。

スライド4

本検討委員会では、四角印で示した位置へ移行できるよう、体力合計点は維持しつつ、運動好きな児童生徒の割合を増加させたいと考えました。

スライド5

運動好きな児童生徒を育成する手段は様々あります。中でも体育・保健体育の授業はすべての児童生徒が平等に取り組む大切な時間です。教員は、楽しくて、力の付く授業づくりが欠かせません。

本委員会は、授業づくりにおける「単元計画の作成」資料を作成し、周知すること。また、小・中学校体育授業研究会及び高等学校地区研究協議会や体力課題解決研究指定校、小学校体育、中・高等学校保健体育研究協議会等において、活用していただき、優れた実践等を県内の各学校へ広めていくことを目的としています。

スライド6

2. 委員会の取組について申し上げます。

スライド7

1年目は、運動好きな児童生徒を育成するために不可欠となる単元計画作成の手引書「リーフレット」を作成し、活用を願いするとともに周知をしてきました。「リーフレット」は、小・中、高等学校ごとに3種類作成しました。

スライド8

まず、リーフレットの要点を説明いたします。赤く点線で示してある、リーフレット1ページ目の右側を御覧ください。単元を計画する前に確認しておくこととして三つの内容を示しました。

一つ目は、運動の特性や魅力です。ここでは主に児童生徒にとっての楽しさや喜びの視点を重視します。各校種とも学習指導要領解説に記載されていますので、そこを確認するとよいでしょう。

二つ目は、児童生徒の実態の把握です。これは既習の学習内容やその定着状況をアンケートやデータの整理等から把握します。

三つ目は、目指すゴール像の設定です。本単元を通して育てたい具体的な姿、単元の目標を資質・能力の三つの柱に基づいて設定してください。

スライド9

リーフレット2ページ目の上段にある「いつ」「何を」「どのように」指導し、「いつ」「何を」「どのように」評価するのかという「指導内容の明確化」と「指導と評価の一体化」が重要です。

また、単元を通し、育成を目指す資質・能力の三つの柱を、特定のものにかたよることなく、バランスよく配置していくことが大切です。

スライド10

2年目は、県内各地域において、リーフレットの趣旨を踏まえて体育・保健体育の授業を実践していただき、その様子を記録して「授業動画資料」を作成しました。

「授業動画資料」は、学習指導要領解説の例示を基に学習する内容に対して、児童生徒の学習活動がイメージしやすいように編集したものです。あくまでも、一つの参考例ですので、各教員が児童生徒の実態等に合わせて工夫するなどして活用することを期待しています。

スライド11

構成内容は、「はじめに」「小学校版」「中学校版」「高等学校版」「おわりに」となっています。

埼玉県運動好きな児童生徒育成検討委員会のホームページでいつでも簡単に視聴することができるように示しました。

スライド12

「はじめに」では、各校種ごとのリーフレット表紙に記載されている、運動好きな児童生徒の育成に向けた現状や単元計画を作成するためのポイントについて紹介しています。

スライド13

「小学校版」では、単元はじめ、中盤、終盤の授業の様子を収録しています。

三つの資質・能力をバランスよく配置した単元計画を作成する上での留意点等について、学習内容と活動を一致しながら確認することができるようになっています。

スライド14

単元中盤については、主に思考力、判断力、表現力等の資質・能力について、指導している様子と児童の活動の様子を確認することができるように編集しました。

スライド15

単元終盤については、主に学びに向かう力、人間性等の資質・能力について、指導している様子と児童の活動の様子を確認することができるように編集されています。

スライド16

「中学校版」では、主に単元中盤に視点を置き、思考力、判断力、判断力等の資質・能力を育成する授業場面を視聴できます。

「高等学校版」では、主に単元終盤に視点を置き、学びに向かう力、人間性等の資質・能力を育成する授業場面を男女共習のキーワードと共に視聴できます。

スライド17

授業づくりの際には、これら「リーフレット」や「授業動画資料」を同時に活用いただくことで、先生方が、単元計画作成のスキルを高めていくことが期待できます。運動好きな児童生徒の育成にむけて継続した取り組みをお願いするものです。

スライド18

3年目は、県内各地域において、「リーフレット」及び「授業動画資料」をもとにした体育・保健体育の授業を実践していただきました。

その実践を視察し、本委員会で作成した資料の趣旨を踏まえ、運動好きな児童生徒の育成に資する工夫を分析、検討を進めました。

スライド19

委員会における授業視察校は、主に、埼玉県体育・保健体育授業研究会の指定を受けた学校及び高等学校地区研究協議会の指定を受けた学校です。

スライド20

授業視察校における工夫や特徴です。

小学校の実践では、運動を絞ることで、じっくり取り組むことができ、効果の実感がわかるような単元計画の工夫がされていました。結果として、児童の必要感が引き出せるように、取り扱う運動を児童と共に考える時間が確保できました。

中学校の実践では、授業動画で求められている生徒同士での学び合いを重視していました。個に応じた課題を共有する者同士でグループを編成し、仲間と対話を深め、意見を広める時間を取り入れることにより、生徒が主体性をもって取り組んでいました。

高等学校の実践では、リーフレットで求められている運動の特性を踏まえた単元計画を設定しました。

やさしい競争から工夫して競争を楽しむことができるように計画することで、授業動画で求められている男女共習を意識した授業でした。結果、生徒が運動することに楽しや喜びを感じながら取り組んでいました。

スライド21

各授業後の研究協議において、参加者から出された意見です。まず、小学校です。

教材の工夫では、かごに水を入れたペットボトルを様々な重さに設定して持たせることで、力が高まったかどうかを測定する取り組みがされていました。

スライド22

次に、中学校です。

学習の定着に応じて単元計画の順序を柔軟に変える工夫をしているので、生徒の実態に応じて学習内容の定着が図られるよう取り組みがなされていました。

スライド23

最後に高等学校です。

単元序盤に知識や技能に関する学習を計画するよう工夫することで、単元中盤から終盤にかけて課題が明確になり主体的に学習に取り組んでいました。

スライド24

3. その他の研究指定校の取組について申し上げます。ここでは、視察に伺った学校以外で、令和5年度、県内で行われた授業研究校及び体力課題解決研究指定校の運動好きな児童生徒育成に向けた優れた取組や単元計画について紹介申し上げます。

スライド25

まずは、体力課題解決研究指定校から、川口市立十二月田（しわすだ）小学校です。

児童の運動好きに関する実態調査を実施し、詳細に分析、整理して実態把握をしました。結果、個に応じた手立てを講じることができ、運動好きな児童の割合を高めることができました。

スライド26

次も、体力課題解決研究指定校から、春日部市立宮川（みやかわ）小学校です。

リーフレット記載の、単元はじめ「出会う」、中盤「知って・考えて・高め合う」、終盤「振り返る」などのキーワードが単元計画に表記されていました。

単元を貫くテーマの達成に向けて、毎時間のねらいに必要感を持たせ、学習内容を明確にすることで、運動好きな児童の割合を高めることができました。

スライド27

最後に、体力課題解決研究指定校から、三郷市立彦成（ひこなり）小学校です。

校内研修の充実を図り、教員同士の授業の質を高めることをポイントに、毎月の教材研究や授業参観、研究協議を重ねる、指導力の向上に努めました。全ての教員の授業力向上により、運動好きな児童の割合を高めることができました。

スライド28

続いて、成果のあった単元計画（指導と評価の計画）について、中学校体育授業研究会から、小鹿野町立小鹿野中学校です。

単元序盤に、知識及び技能について学習し、単元中盤から後半に課題解決学習を計画している点で、生徒が主体的に意欲をもって学習している成果が見られました。

スライド29

続いて、成果のあった単元計画（指導と評価の計画）について、高等学校地区研究協議会から、県立所沢中央高等学校です。

単元序盤に学習した、学びに向かう力，人間性等の「フェアプレイをすること」や「互いに助け合い、教え合うこと」などについては、一定の学習期間を設けたうえで、単元中盤に評価するという計画が示されています。

工夫した指導と評価の一体化によって、運動好きな生徒の育成に成果が見られました。

スライド30

4. 本事業の成果と課題について申し上げます。

スライド31

まず、成果について申し上げます。

図2は、全国体力・運動能力、運動習慣等調査及び運動の好意度等調査における「運動やスポーツをすることが好きですか」に対して「好き・やや好き」と回答した男子児童生徒、小5、中2、高2における経年変化を表したグラフです。

このグラフで、「好き・やや好き」と回答した男子児童生徒の割合は、どの校種でも、数値の向上が見られております。

スライド32

次に、課題について申し上げます。

図3は、全国体力・運動能力、運動習慣等調査及び運動の好意度等調査における「運動やスポーツをすることが好きですか」に対して「好き・やや好き」と回答した女子児童生徒、小5、中2、高2における経年変化を表したグラフです。

このグラフで、「好き・やや好き」と回答した女子児童生徒の割合は、どの校種でも、期待したような数値の向上が見られませんでした。

スライド33

5. 今後に向けて申し上げます。

スライド34

運動好きな児童生徒の育成にあたっては、全ての児童生徒が等しく学ぶことのできる体育・保健体育授業の時間を、魅力のある内容とし、体育・保健体育の授業が「楽しい」と実感することができるよう、授業づくりの検討が欠かせません。

今後も、埼玉県の研究校指定校の取組や好事例を多くの学校へ周知し、参考にしてもらうよう働きかけてまいります。そして、課題については、継続して検討することが大切であると考えております。

スライド35

本委員会で3年間、埼玉県の運動好きな児童生徒の育成に向けた取り組みや手立てについて、粘り強く検討を重ねてきた関係委員の方々です。

スライド36

「好きこそ ものの上手なれ」

物事は、まず好きであってこそ主体的に取り組み、上達していくものです。

今後も引き続き、共に埼玉県の運動好きな児童生徒の育成に向けて取り組んでまいりましょう。